

履 修 要 覧

(平成 7 年度)

豊橋技術科学大学

学 年 暦

入 学 式	4 月 7 日 (金)
学 生 生 活 ガ イ ダ ン ス	4 月 10 日 (月)
履 修 ガ イ ダ ン ス	4 月 11 日 (火)
第 1 年 次 学 外 指 導	4 月 12 日 (水)
1 学 期 授 業 開 始	4 月 12 日 (水)
1 学 期 定 期 試 験	6 月 22 日 (木) ～ 6 月 30 日 (金)
夏 期 休 業	7 月 1 日 (土) ～ 8 月 31 日 (木)
2 学 期 授 業 開 始	9 月 1 日 (金)
開 学 記 念 日	10 月 1 日 (日)
2 学 期 定 期 試 験	11 月 14 日 (火) ～ 11 月 24 日 (金)
秋 期 休 業	11 月 26 日 (日) ～ 11 月 30 日 (木)
3 学 期 授 業 開 始	12 月 1 日 (金)
冬 期 休 業	12 月 25 日 (月) ～ 1 月 7 日 (日)
学 位 申 請 書 提 出 期 限	1 月 8 日 (月) ～ 1 月 16 日 (火)
3 学 期 定 期 試 験	2 月 22 日 (木) ～ 3 月 1 日 (金)
学 位 記 授 与 式 ・ 卒 業 式	3 月 22 日 (金)
春 期 休 業	3 月 25 日 (月) ～ 4 月 3 日 (水)

履修登録関係日程

受 講 登 録 科 目 履 修 登 録 表 提 出	4 月 11 日 (火) ～ 4 月 13 日 (木)
履 修 登 録 確 認 表 配 付	4 月 20 日 (木)
履 修 登 録 科 目 の 変 更	4 月 20 日 (木) ～ 4 月 21 日 (金)
単 位 修 得 表 配 付 (1 学 期)	9 月 1 日 (金)
第 2 学 期 以 降 の 開 講 科 目 の 変 更	9 月 1 日 (金) ～ 9 月 4 日 (月)
単 位 修 得 表 配 付 (2 学 期)	12 月 8 日 (金)
第 3 学 期 以 降 の 開 講 科 目 の 変 更	12 月 8 日 (金) ～ 12 月 11 日 (月)
単 位 修 得 表 配 付 (3 学 期)	掲 示 に て 通 知

目 次

工 学 部

I	卒業要件等	
1	第1年次入学者	
	(1) 卒業要件及び履修基準	1
	(2) 科目修得基準	2
2	第3年次編入学者	
	(1) 卒業要件及び履修基準	5
II	履修方法・試験・在学年限等	
1	履修方法	6
2	試験	8
3	在学年限等	9
4	各種資格の認定	10
III	教育課程	
1	授業科目・単位等	11
2	第1年次入学者	
	(1) 一般基礎科目	12
	(2) 専門科目	15
3	第3年次編入学者	
	(1) 一般基礎科目	31
	(2) 専門科目	33

工学研究科修士課程

I	修了要件等	
1	修了要件	41
2	学位の申請	41
3	最終試験	41
II	履修方法・試験・在学年限等	
1	履修方法	42
2	試験	43
3	在学年限	43
4	休学	43
III	教育課程	
1	授業科目・単位等	44
2	共通科目等	45
3	専攻科目	46

工学研究科博士後期課程

I	修了要件等	
1	修了要件	5 3
2	学位の申請	5 3
3	最終試験	5 3
II	履修方法・試験・在学年限等	
1	履修方法	5 4
2	試験	5 4
3	在学年限	5 4
4	休学	5 4
III	教育課程	
1	授業科目・単位等	5 5
2	専攻科目	5 6
◎	添付資料	
○	工学部教育課程及び履修方法等に関する規則	6 0
○	実務訓練の履修に関する規則	6 4
○	大学院教育課程及び履修方法等に関する規則	6 5

工 学 部

I 卒業要件等

1 第1年次入学者

(1) 卒業要件及び履修基準

学部卒業に必要な最低修得単位数等については、以下のとおり定めている。

区 分		単位数	履 修 基 準
一 般 基 礎 科 目	一般基礎Ⅰ	16	(1) 数学Ⅰ、数学Ⅱを修得しなければならない。
	一般基礎Ⅱ	18	(1) 保健体育理論、保健体育実技Ⅰ及び保健体育実技Ⅱを修得しなければならない。 (2) 選択Ⅰの中から3科目以上修得しなければならない。 (3) 選択Ⅲは、外国人留学生のみ修得することができる。ただし、修得した単位の内9単位を限度として卒業要件単位に算入できる。 (4) 授業科目の単位認定は、原則として学期制とする。
	一般基礎Ⅲ	10	(1) 1つの外国語について8単位以上修得しなければならない。 (2) 上記の他、英語、ドイツ語、フランス語及び中国語の中から一つの外国語を選択し、2単位を修得しなければならない。
	一般基礎Ⅳ	6	(1) 選択Ⅰの中から2科目以上3単位以上を修得しなければならない。 (2) 選択Ⅱの中から2科目以上3単位以上を修得しなければならない。 (3) 総合科目は、選択Ⅰ、選択Ⅱそれぞれ2単位まで修得することができる。 (4) 自然基礎Bは、外国人留学生のみ修得することができる。
小 計		50	
専 門 科 目	専 門 Ⅰ	30	(1) 卒業要件にかかる単位修得方法等の詳細については、各課程の指導による。 (2) 原則として、教育課程及び授業時間割に基づき当該年次に開講される科目を履修しなければならない。
	専 門 Ⅱ	50	なお、所属課程の上級年次の科目を履修する場合は、クラス担任（又は指導教官）の許可を受けた上、授業担当教官の許可を必要とする。 (3) 他課程開講科目（実験・実習科目を除く。）を履修できるが、履修にあたってはクラス担任（又は指導教官）の許可を受けた上、授業担当教官の許可を必要とする。
小 計		80	
合 計		130	

(2) 科目修得基準

第2年次末において、修得した科目及び単位数が以下に掲げる各課程の修得基準に達しない場合は留年（指導留年）しなければならない。

①エネルギー工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎Ⅰ 一般基礎Ⅱ 一般基礎Ⅲ 一般基礎Ⅳ	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 Ⅰ	必 修 科 目	7	
	選 択 Ⅰ ・ 選 択 Ⅱ の 内	17	
合 計		44	

②生産システム工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎Ⅰ 一般基礎Ⅱ 一般基礎Ⅲ 一般基礎Ⅳ	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 Ⅰ	必 修 科 目	8	
	選 択 Ⅰ ・ 選 択 Ⅱ の 内	16	
合 計		44	

③電気・電子工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎Ⅰ 一般基礎Ⅱ 一般基礎Ⅲ 一般基礎Ⅳ	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 Ⅰ	電気・電子工学基礎実験 上記以外の必修科目の内 選択科目の内	3 13 7	
合 計		43	

④情報工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎Ⅰ 一般基礎Ⅱ 一般基礎Ⅲ 一般基礎Ⅳ	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 Ⅰ	情報工学基礎実験 上記以外の必修科目の内 選択科目の内	3 13 7	
合 計		43	

⑤物質工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎Ⅰ 一般基礎Ⅱ 一般基礎Ⅲ 一般基礎Ⅳ	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 Ⅰ	物質工学基礎実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 上記以外の必修科目の内	6 14	
合 計		40	

⑥建設工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎Ⅰ 一般基礎Ⅱ 一般基礎Ⅲ 一般基礎Ⅳ	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 Ⅰ	建設設計演習Ⅰ 上記以外の必修科目の内	3 12	
合 計		35	

⑦知識情報工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎Ⅰ 一般基礎Ⅱ 一般基礎Ⅲ 一般基礎Ⅳ	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 Ⅰ	必 修 科 目	15	
	選択科目の内	7	
合 計		42	

⑧エコロジー工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎Ⅰ 一般基礎Ⅱ 一般基礎Ⅲ 一般基礎Ⅳ	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 Ⅰ	必修科目の内	7	
	選択科目の内	13	
合 計		40	

2 第3年次編入学者

(1) 卒業要件及び履修基準

学部卒業に必要な最低修得単位数等については、以下のとおり定めている。

区 分		単位数	履 修 基 準
一般基礎科目	一般基礎Ⅱ	8	(1) 選択Ⅰの中から1科目以上修得しなければならない。 (2) 選択Ⅲは、外国人留学生のみ修得することができる。ただし、修得した単位の内4単位を限度として卒業要件単位に算入できる。 (3) 授業科目の単位認定は、原則として学期制とする。
	一般基礎Ⅲ	4	(1) 英語を2単位以上修得しなければならない。 (2) 上記の他、英語、ドイツ語、フランス語及び中国語の中から一つの外国語を選択し、2単位を修得しなければならない。 (3) 第1年次及び第2年次に開講されている授業科目を履修できるが、修得した単位は卒業要件単位に算入しない。
	一般基礎Ⅳ	3	(1) 総合科目は、2単位まで修得することができる。
小 計		15	
専門科目	専門Ⅱ	50	(1) 卒業要件にかかる単位修得方法等の詳細については、各課程の指導による。 { エネルギー工学課程単位修得方法 選択Ⅲの中から14単位以上を修得しなければならない。 (2) 原則として、教育課程及び授業時間割に基づき当該年次に開講される科目を履修しなければならない。 なお、所属課程の上級年次の科目を履修する場合は、クラス担任（又は指導教官）の許可を受けた上、授業担当教官の許可を必要とする。 (3) 他課程開講科目（実験・実習科目を除く。）を履修できるが、履修にあたってはクラス担任（又は指導教官）の許可を受けた上、授業担当教官の許可を必要とする。
合 計		65	

II 履修方法・試験・在学年限等

1 履修方法

授業科目の履修は、在学年次及び在学課程の教育課程にしたがって履修すること。

（「Ⅲ 教育課程」参照）

（1）履修計画

履修計画は、本書をよく読み、年度始めに行われるガイダンスや教官の指導をもとに、授業時間割表により余裕をもって立てること。

なお、選択科目は、都合により開講されない場合があるので、十分注意すること。

授業時間割表については、各学期の始めに掲示する。

なお、集中講義科目については、開講時期等が決定次第、掲示により通知する。

（2）履修登録

履修しようとする授業科目は、所定の期日までに「受講科目履修登録表」により、すべて履修登録しなければならない。

履修登録していない授業科目の単位認定は一切できない。

なお、集中講義科目（不定期に、ある期間集中して授業が行われる科目）については、その科目の開講日の3日前（休業日を除く）までに「集中講義科目履修登録票」により履修登録すること。

- 1 他課程の授業科目を履修しようとする場合は、「他課程（他専攻）受講願」によりクラス担任（又は指導教官）の許可を受けた上、授業担当教官の許可を受け履修登録すること。
- 2 履修登録したにもかかわらず、授業や試験を受けない場合は、その授業科目は不合格とする。ただし、履修登録の取り消しをした場合はこの限りでない。
- 3 単位を修得した授業科目は、再度、履修登録できない。
- 4 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修できない。ただし、試験等による再履修科目及び集中講義科目については、この限りでない。
- 5 年間15単位以上修得できない者は、除籍となるので注意すること。

（「3 (1) 在学年限」参照）

（3）履修登録の確認及び追加・取消

履修登録の確認は、「履修登録確認表」（年度初めに各自に一度しか配付しない）により行うこと。

記載された内容に間違いがある場合は、追加・取消の手続きを必ず行うこと。

(4) 再履修

定期試験等で不合格となった授業科目の内、修得を必要とする授業科目については原則として次年度に再履修すること。ただし、英語については、以下により再履修すること。

なお、再履修しようとする授業科目についても、履修登録すること。

(英語Ⅰ、Ⅱの再履修について)

不合格者は、次年度に当該クラスを再履修すること。

(英語Ⅲの再履修について)

不合格者は、当該クラスの再履修を認めないので、次年度の同一学期、同一曜日のRクラスを受講すること。

(5) 試験等による再履修

授業科目担当教官が、試験等により単位認定すると認めた場合に限り、「試験等による再履修願」を授業科目担当教官に提出し、許可を受けた上で履修登録すること。

(6) 実務訓練の履修

各工学課程とも、実務訓練6単位(専門Ⅱ)の履修が必要である。

この科目については、第4年次学生を対象に詳細なガイダンスが実施され、指導教官の助言のもとに履修方法を決定する。

入学した諸君が大学での勉学を始めるに当たって最初に必要となることは、履修要覧をよく理解し、授業時間割表を見て履修計画を立てることです。

本学の授業科目は、卒業要件等(「Ⅰ 卒業要件等」参照)にあるように、一般基礎科目と専門科目に分類されます。

一般基礎科目は、各課程に共通する学術の基礎となる授業科目であり、これらは今後大学で学修するに当たり基礎となるだけでなく、卒業後も社会人として、技術者として活躍するためには欠かせない基礎的素養となるものです。専門科目は、各工学課程の特色ある内容を学修しますが、一般基礎科目の内容を基本に学修が展開されることが多く、さらには専門Ⅰを学修したのち、これを基礎にして専門Ⅱを学修することになります。

各課程ごとの履修ガイダンス及びクラス担任(又は指導教官)の助言等を参考にして、授業科目の連続性等を考慮して適切な学修計画を立て、調和のとれた履修計画を立ててください。

2 試験

試験には、定期試験、追試験及び再試験がある。

(1) 定期試験

定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて実施する。ただし、授業科目担当教官が必要と認めた場合は、随時に試験を行うことができる。

なお、定期試験の実施期間及び試験時間割等は、その都度掲示で通知する。

(2) 追試験

追試験は、学生が次の理由により、当該授業科目の定期試験を受けることができなかった場合に限り、「追試験受験許可願」を学務課教務係で受け取り、授業科目担当教官等の許可を受けた上で、追試験を受験することができる。

- ① 病気（医師の診断書を添付）のとき
- ② 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

(3) 再試験

再試験は、第4年次末定期試験等の結果、不合格科目が2科目5単位以内の者で、その科目が合格することにより卒業資格を得ることができる場合に限り、次の科目について再試験を受験することができる。

- ① 第3年次通年開講の専門科目（実験、実習科目を除く。）
- ② 第3年次第3学期開講の専門科目（実験、実習科目を除く。）
- ③ 第4年次開講の専門科目（実験、実習科目を除く。）

(4) 単位の認定及び成績評価

授業科目の単位認定は、試験等により授業科目担当教官が行う。

- ① 成績の評価は、次の基準によって行い、A、B及びCを合格、Dを不合格とし、C以上の評価を得た場合に単位を認定する。
 - A・・・80点以上
 - B・・・65点以上80点未満
 - C・・・55点以上65点未満
 - D・・・55点未満
- ② 単位認定された成績は、各学期終了後、学務課教務係から「単位修得表」により通知する。（配付日は、履修登録関係日程を参照すること。）

定期試験等において不正行為を行った場合は、その状況を考慮して懲戒処分を行い、当該定期試験における試験科目は無効としますから、十分注意してください。

3 在学年限等

(1) 在学年限

修業年限を超えて在学できる年限については、以下のとおり定めている。

- ① 第1年次入学者については、5年を超えて在学することができない。
- ② 第3年次編入学者については、3年を超えて在学することができない。
- ③ 特に学長が許可した場合は、更に在学年限を1年延長することができる。

(2) 休学

疾病その他特別の理由により、引き続き2か月以上修学することができない場合は、所定の「休学願」をクラス担任（又は指導教官）及び所属系長を経由して学務課教務係に提出し、学長の許可を得て1年以内に限り休学することができる。

ただし、特別の理由がある場合は、さらに1年を限度として休学期間を延長することができる。

なお、休学期間は、前記「(1) 在学年限」に定める在学期間に算入しない。

(3) 留年

自ら希望して留年するものを「希望留年」、指導により留年させられるものを「指導留年」及び休学したことにより留年するものを「休学留年」とし、次のとおり定めている。

① 希望留年

学生が学修上の必要から同一年次で再度履修することを希望する場合は、所定の期日までに学務課教務係に届け出ること。その期間中における本人の勉学計画が妥当と認められた場合は、希望留年が許可される。

② 指導留年

第2年次末において、既に修得した科目及び単位数が各課程の定める「科目修得基準」（2頁参照）に達しない場合は、留年しなければならない。

③ 休学留年

現年度中に休学期間があり、その年次中の修得単位数が通算して15単位未満である場合は、留年しなければならない。

(4) 除籍

学業成績不振により以下に該当する場合は、除籍する。

- ① 前記「(1) 在学年限」に定める期間を超えた者。
- ② 年間15単位以上を修得することができない者。ただし、特別の理由によりあらかじめ学長の許可を受けた者を除く。

年間15単位以上を修得できない者でも、次に該当する者は、あらかじめ学長の許可を受けたものとし、除籍を免除する。

- 1 第4年次に在学する者
- 2 留年することとなった者
- 3 留年している者で、同一年次において通算15単位以上修得した者

4 各種資格の認定

電気・電子工学課程及び建設工学課程に所属する者で、所定の科目を履修し、修得した者には、以下に示す資格が認定される。

① 電気主任技術者（電気・電子工学課程）

所定の科目を修得し、本学電気・電子工学課程を卒業した後、「電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令」に定められた実務経験を有した者には電気主任技術者の資格が認定される。

なお、その詳細については、電気・電子工学課程の指導によること。

② 測量士補、測量士（建設工学課程）

次の科目を修得し、本学建設工学課程を卒業した者には測量士補、さらにこれに加えて測量に関し1年以上の実務経験を有した者には測量士となる資格が認定される。

ア 第1年次入学者

「測量学Ⅰ・同実習」及び「測量学Ⅱ・同演習」

イ 第3年次編入学者（高専等の土木関係学科出身者）

「測量学Ⅱ・同演習」

ウ 第3年次編入学者（上記以外の学生）

「測量学Ⅰ・同実習」及び「測量学Ⅱ・同演習」

③ 一級建築士（建設工学課程）

本学建設工学課程を卒業した後、建築に関して2年以上の実務経験を有した者には、一級建築士試験の受験資格が認定される。

III 教育課程

1 授業科目・単位等

(1) 授業科目

授業科目は、大きく一般基礎科目と専門科目に分かれている。

一般基礎科目は、一般基礎Ⅰ、一般基礎Ⅱ、一般基礎Ⅲ及び一般基礎Ⅳに、専門科目は専門Ⅰ及び専門Ⅱに区分され、それぞれの科目ごとに単位を定めている。

開講授業科目については、次頁以降の一般基礎科目及び専門科目を参照すること。
 なお、授業科目の内容については、別冊「授業紹介」を参照すること。

(2) 必修科目、選択・必修科目及び選択科目

- ① 必修科目は、必ず履修して単位を修得しなければならない科目である。
- ② 選択・必修科目は、指定された複数の科目群の中から選択して履修し、決められた科目数又は単位数以上を修得しなければならない科目である。
- ③ 選択科目は、開講されている科目の中から選択して履修し、単位を修得する科目である。

(3) 単位の計算方法

授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれか、又はこれらの併用により行われるが、1単位の履修時間は、次の基準により計算する。

- ① 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

(4) 授業期間

授業期間は、学年暦（本書表紙裏面参照）によって定めており、第1学期、第2学期及び第3学期の3学期から成っている。

〔一般基礎科目及び専門科目の開講学年・学期〕

1 年 次			2 年 次			3 年 次			4 年 次		
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
一般基礎			一般基礎			一般基礎			一般基礎		実務訓練
						専 門 II			専 門 II		
専 門 I			専 門 I								

第1年次入学者
(1) 一般基礎科目
① 一般基礎Ⅰ

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数					備 考
			1年次			2	3	
			1 学期	2 学期	3 学期	年 次	年 次	年 次
必修	数学Ⅰ	3	4					
	数学Ⅱ	3	4					
選択	数学ⅢA	1.5			2			
	数学ⅢB	1.5			2			
	物理学Ⅰ	2	2					
	物理学Ⅱ	2		2				
	物理学Ⅲ	2			2			
	物理学Ⅳ	2				2		
	物理実験	1				3		
	化学Ⅰ	2		2				
	化学Ⅱ	2			2			
	化学Ⅲ	2				2		
	化学実験	1				3		
	生物学	2				2		
	地学	2				2		

② 一般基礎Ⅱ

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数					備 考
			1年次			2	3	
			1 学期	2 学期	3 学期	年 次	年 次	年 次
必修	保健体育理論	2	1	1				
	保健体育実技Ⅰ	1	3					
	保健体育実技Ⅱ	1				3		
選択Ⅰ	国語・国文学	3	1	1	1		3	
	史学Ⅰ-1	3	1	1	1	3	3	
	史学Ⅰ-2	3	1	1	1	3	3	
	社会思想史	3				3	3	
	社会科学概論	3				3	3	
	社会工学計画	3				3	3	
	統計学概論	3				3	3	

② 一般基礎Ⅱ

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
			1年次			2	3	4	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期	年 次	年 次	年 次	
選択Ⅱ	史学Ⅱ	3	1	1	1		3		
	史学Ⅲ	3				3	3		
	国文学	3				3	3		
	言語学	3	1	1	1	3	3		
	心理学	3				3	3		
	アメリカ史Ⅰ	3	1	1	1		3		
	アメリカ史Ⅱ	3	1	1	1	3	3		
	東洋思想史	3	1	1	1	3	3		
	人文地理	3				3			
	日本語学	3	1	1	1	3	3		
	西洋の思想と文化	3				3	3		
	法学	3				3	3		
	ミクロ経済学	2				2	2		
	マクロ経済学	2				2	2		
	経営学概論	2	集 中 講 義			2	2		
	地域経済分析	2				2	2		
	現代産業論	1					1		
	社会と環境	2				2	2		
	社会調査論	2	1	1		2	2		
	開発計画論	1	集 中 講 義			1	1		
	保健体育実技Ⅲ	1					3		卒業要件単位数 に算入しない。
選択Ⅲ	日本語A	3	2	2	2				特例科目として 外国人留学生に 開講する。
	日本語B	3				6	6		
	日本語C	1.5					3	3	
	日本語D	1.5					3	3	

③ 一般基礎Ⅲ

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
			1年次			2 年 次	3 年 次	4 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期				
選 択	英語Ⅰ	3	2	2	2				
	英語Ⅱ	3				6			
	英語Ⅲ	3					6		
	英語Ⅳ	2						4	
	ドイツ語Ⅱ	3				6			
	ドイツ語Ⅲ	3					6		
	ドイツ語Ⅳ	2						4	
	フランス語Ⅱ	1.5				3			
	フランス語Ⅲ	3					6		
	フランス語Ⅳ	1						2	
	中国語	3					6		

④ 一般基礎Ⅳ

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考	
			1年次			2 年 次	3 年 次	4 年 次		
			1 学 期	2 学 期	3 学 期					
選択Ⅰ	工学基礎A	1	1							
	工学基礎B	1	3							
	自然基礎A	1	2							
	自然基礎B	2	4							外国人留学生対象
	英語基礎Ⅰ	1	2							
	総合科目Ⅰ	1	1							総合科目は、2 単位まで修得す ることができる。
	総合科目Ⅱ	1	1							
	総合科目Ⅲ	1	1							
選択Ⅱ	日本語法	1					1			総合科目は、2 単位まで修得す ることができる。 各科目と単位の 科目1単修でき まする。
	英語基礎Ⅱ	1					2			
	総合科目Ⅳ	1					1			
	総合科目Ⅴ	1					1			
	総合科目Ⅵ	1					1			
	総合科目Ⅶ	1					1			

(2) 専門科目

① エネルギー工学課程

区 分	必 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数							備 考
				1 年 次			2 年 次	3 年 次	4 年 次		
				1 学 期	2 学 期	3 学 期					
専 門 											

専 門 <

② 生産システム工学課程

区分	必修 の別	授業科目	単位数	講 時 数					備 考
				1 年次			2	3	
				1 学期	2 学期	3 学期	年次	年次	年次
専門 I	必修	生産システム工学序論	1	1					
		機械製図	2		6				
		設計製図	2				6		
		工学実験	3				9		
	選択 I	電気回路論 I A	2		2				
		電気回路論 I B	2			2			
		電子回路 I	2				2		
		一般情報処理 I	3		4				
		一般情報処理 II	2				2		
	選択 II	数学 IV	3				4		
		図学 I	1	1					
		図学演習 I	0.5	1					
		図学 II	1		1				
		図学演習 II	0.5		1				
		機械工作法 I	1		1				
		機械工作法 II	1			1			
		機構学	1				1		
		機械要素	2				2		
		材料工学概論	1				1		
		工学解析演習	1				2		
		水力学	3				3		
		材料力学 I	3				4		
		材料力学 II	1				1		
		機械力学	2				2		
専門 II	必修	生産システム工学実験 I	2					6	
		生産システム工学実験 II	1					3	
		生産システム工学演習	1.5					3	
		数学 V	1.5					2	
		数学 VI	1.5					2	
		特別研究	4						12
		実務訓練	6						
	選択 III	電算機プログラミング	2					3	
		電子機械制御	2					2	
		電子・情報工学概論	2					2	
		数理統計学	1					1	

③ 電気・電子工学課程

区 分	必・選 の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数			備 考			
				1 年 次				2 年 次	3 年 次	4 年 次
				1 学 期	2 学 期	3 学 期				
専 門 <										

専 門 Ⅱ	選 択	電磁気学Ⅵ	2					2		
		情報理論	2					2		
		電気物性基礎論Ⅱ	2					2		
		数値解析	2					2		
		計算機構成論Ⅰ	2					2		
		プログラム構成法	2					2		
		信号解析論	2					2		
		データ構造論	2					2		
		言語処理系論	2					2		
		通信システム	2						2	
		システム・プログラム論	2						2	
		ディジタル信号処理論	2						2	
		電力工学Ⅱ	2						2	
		高電圧工学	2						2	
		固体電子工学Ⅱ	2						2	
		電気材料論	2						2	
		電磁波工学	2						2	
		レーザー工学	2						2	
		電気機器設計法及び製図	2						2	
		電離気体論	2						2	
		エネルギー変換工学	2						2	
		信頼性工学	2						2	
		制御工学	2						2	
		原子力工学	2						2	
		計算理論	2						2	
		論理回路設計	2						2	
		半導体工学Ⅰ	2						2	
		半導体工学Ⅱ	2						2	
		情報交換工学	2						2	
		電気・電子工学特別講義Ⅰ	1						1	
		電気・電子工学特別講義Ⅱ	1						1	
		工場管理	1						1	
		電気法規	1						1	
		電波法規	1						1	

④ 情報工学課程

区分	必修 別	授業科目	単位数	講 時 数					備 考
				1 年次			2	3	
				1 学期	2 学期	3 学期	年 次	年 次	年 次
専門 I	必修	電気回路論 I A	2		2				
		電気回路論 I B	2			2			
		電気回路論 II	2				2		
		一般情報処理 I	3		4				
		電磁気学 I	2			2			
		電磁気学 II	2				2		
		電子回路 I	2				2		
		論理回路 I	2				2		
		情報工学基礎実験	3				9		
	選択	図学 I	1	1					
		図学演習 I	0.5	1					
		図学 II	1		1				
		図学演習 II	0.5		1				
		一般情報処理 II	2				2		
		応用数学	2				2		
		電磁気学 III	2				2		
		電気回路論 III	2				2		
		電子回路 II	2				2		
		電気計測	2				2		
		通信工学概論	2				2		
		電力工学 I	2				2		
		電気機械工学 I	2				2		
		電気機械工学 II	2				2		
		計算機構成論 I	2				2		
		システム基礎論	2				2		
専門 II	必修	数学 IV	1.5					2	
		数学 V	1.5					2	
		情報数学 I	2					2	
		論理回路 II	2					2	
		データ構造論	2					2	
		情報工学実験 I	4					12	
		情報工学実験 II	2						6
		特別実験	4						12
		実務訓練	6						
	選択	情報数学 II	2					2	
		電磁気学 IV	2					2	
		電磁気学 V	2					2	
		線形システム論	2					2	

専門Ⅱ	選択	電磁気学Ⅵ	2					2	
		電子回路Ⅲ	2					2	
		情報理論	2					2	
		電気物性基礎論Ⅰ	2					2	
		電気物性基礎論Ⅱ	2					2	
		数値解析	2					2	
		プログラム構成法	2					2	
		固体電子工学Ⅰ	2					2	
		言語処理系論	2					2	
		形式言語論	2					2	
		論理数学	2					2	
		信号解析論	2					2	
		計算機構成論Ⅰ	2					2	
		計算機構成論Ⅱ	2						2
		通信システム	2						2
		システム・プログラム論	2						2
		ディジタル信号処理論	2						2
		電力工学Ⅱ	2						2
		電磁波工学	2						2
		エネルギー変換工学	2						2
		信頼性工学	2						2
		制御工学	2						2
		計算理論	2						2
		論理回路設計	2						2
		半導体工学Ⅰ	2						2
		半導体工学Ⅱ	2						2
		情報交換工学	2						2
		記号処理言語	2						2
		情報工学特別講義Ⅰ	1						1
		情報工学特別講義Ⅱ	1						1
		情報工学特別講義Ⅲ	1						1
		工場管理	1						1
		電気法規	1						1
		電波法規	1						1
パワ→認識・学習理論	2						2		
神経生理工学	2						2		
神経数理工学	2						2		
知識工学	2						2		

⑤ 物質工学課程

区 分	必 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
				1 年 次			2 年 次	3 年 次	4 年 次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期				
専 門 										

専 門 Ⅱ	選 択	物理化学Ⅴ	1					1		
		応用物理化学Ⅰ	1					1		
		応用物理化学Ⅱ	1						1	
		応用物理化学Ⅲ	1						1	
		有機化学Ⅴ	1					1		
		応用有機化学Ⅰ	1					1		
		応用有機化学Ⅱ	1						1	
		応用有機化学Ⅲ	1						1	
		無機化学Ⅴ	1					1		
		応用無機化学Ⅰ	1					1		
		応用無機化学Ⅱ	1						1	
		応用無機化学Ⅲ	1						1	
		分析化学Ⅴ	1					1		
		応用分析化学Ⅰ	1					1		
		応用分析化学Ⅱ	1						1	
		応用分析化学Ⅲ	1						1	
		材料科学Ⅰ	1						1	
		材料科学Ⅱ	1						1	
		材料科学Ⅲ	1						1	
		生化学Ⅲ	1					1		
		物質科学Ⅰ	1						1	
		物質科学Ⅱ	1					1		
		物質科学Ⅲ	1						1	
		物質科学Ⅳ	1						1	
		物質科学Ⅴ	1						1	
		物質工学特別講義Ⅰ	1					1		
		物質工学特別講義Ⅱ	1					1		
		物質工学特別講義Ⅲ	1					1		
		物質工学特別講義Ⅳ	1					1		

⑥ 建設工学課程

区 分	必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考		
				1 年 次			2 年 次		3 年 次	4 年 次
				1 学 期	2 学 期	3 学 期				
専 門 I	必 修	建設設計演習Ⅰ	3	6						
		構造力学Ⅰ・同演習	2.5	3						
		数学ⅣA	1.5				2			
		建設設計演習Ⅱ	4				8			
		測量学Ⅰ・同実習	3				5			
		構造力学Ⅱ・同演習	2.5				3			
		環境学序論	2				2			
		建設物理学	2				2			
		建設生産工学	1			1				
	選 択	数学ⅣB	1.5				2			
		構造システム学	1	1						
		図学Ⅰ	1	1						
		図学演習Ⅰ	0.5	1						
		図学Ⅱ	1		1					
		図学演習Ⅱ	0.5		1					
		一般情報処理Ⅰ	3		4					
		一般情報処理Ⅱ	2				2			
		造形演習	2				4			
		計画序論	1				1			
		専 門 II	必 修	構造力学Ⅲ・同演習	1.5					2
鉄筋コンクリート構造学Ⅰ	1							1		
地盤工学Ⅰ	1							1		
構造計画法	1							1		
建築環境工学Ⅰ	2							2		
建設水工学	1							1		
水理学	1							1		
衛生工学Ⅰ	1							1		
大気環境工学Ⅰ	1							1		
都市地域計画	1							1		
都市地域史	1							1		
地区計画	1							1		
建築計画	1							1		
住宅計画	1							1		
交通工学Ⅰ	1							1		
ライビリティ・アナリシス	1							1		
建設設計演習Ⅲ	3							6		
建設工学特別演習	6								12	
実務訓練	6									

専 門 Ⅱ	選 択	鉄筋コンクリート構造学Ⅱ・同演習	1.5					2		
		地盤工学Ⅱ・同演習	1.5					2		
		建築環境工学Ⅰ演習	1					2		
		建築設備	1					1		
		建設水工学演習	0.5					1		
		水理学演習	0.5					1		
		衛生工学Ⅰ演習	0.5					1		
		大気環境工学Ⅰ演習	0.5					1		
		都市計画演習	1					2		
		日本建設史	2					2		
		意匠設計	2					2		
		建設設計演習Ⅳ	1					2		
		構造設計演習	0.5					1		
		土木工学演習	1					2		
		計画数学	1					1		
		構造解析法	2						2	
		交通工学Ⅱ・同演習	1.5					2		
		測量学Ⅱ・同演習	3					4		
		建設施工・マネジメント	1						1	
		西洋建設史	2						2	
		地区計画・同演習	1.5						2	
		建築計画・同演習	1.5						2	
		住宅計画・同演習	1.5						2	
		地震工学	2						2	
		木質構造	2						2	
		鋼構造学・同演習	1.5					2		
		構造解析演習	0.5						1	
		建設流体工学Ⅰ・同演習	1.5						2	
		建設流体工学Ⅱ・同演習	1.5						2	
		衛生工学Ⅱ・同演習	1.5						2	
		大気環境工学Ⅱ・同演習	1.5						2	
		建築環境工学Ⅱ・同演習	3						4	
		建設設計演習Ⅴ	1						2	
		建設法規	1						1	

⑦ 知識情報工学課程

区 分	必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
				3 年 次			4 年 次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期		
専 								

専 門 II	選 択	離散数学	2					2		
		アルゴリズム・データ構造 II	2						2	
		分子構造論	2					2		
		分子情報システム論	2						2	
		化学情報学	2					2		
		生体情報工学	2					2		
		一般システム論	2					2		
		知識工学	2						2	
		情報理論	2						2	
		数値解析学	2						2	
		計算理論	2						2	
		情報組織論	2					2		
		オペレーティングシステム	2						2	
		分子理論	2						2	
		有機分子設計論	2					2		
		制御工学 B	2						2	
		パターン認識・学習理論	2					2		
		神経数理工学	2						2	
		電子機械制御	2						2	
		神経生理工学	2						2	
		オペレーションズ・リサーチ	2					2		

⑧ エコロジー工学課程

区 分	必 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
				1 年次			2 年 次	3 年 次	4 年 次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期				
専 門 										

専 門 II	選 択	生物機能材料工学	2					2		
		遺伝子工学	2					2		
		生物環境資源工学	2					2		
		分子生物学	2						2	
		たんぱく工学	2						2	
		化学生態学	2						2	
		応用微生物学	2						2	
		廃棄物化学	2						2	
		電子物性基礎論	2					2		
		デジタル信号処理論	2						2	
		論理回路設計	2						2	
		バイオ計測工学	2					2		
		生物情報工学	2					2		
		生物物理学	2					2		
		バイオ光応用工学	2						2	
		生体電気力学	2						2	
		半導体工学	2						2	
		マイクロエレクトロニクス	2						2	
		水圏環境工学	2					2		
		気圏環境工学	2					2		
		地圏環境工学	2					2		
		環境・生態ダイナミクス	2					2		
		生態エネルギー工学	2					2		
		エネルギー・資源・環境論	1					1		
		エネルギー・物質再生処理工学	2					2		
		環境移動現象学	2					2		
		環境計測工学	2						2	
		人為創成物質環境・生態影響論	1						1	
		地球規模エネルギーシステム工学	1						1	
		環境調和エネルギー利用工学	1						1	

第3年次編入学者
(1) 一般基礎科目
① 一般基礎Ⅱ

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			3年次			4 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
選択Ⅰ	国語・国文学	3	1	1	1		
	史学Ⅰ－1	3	1	1	1		
	史学Ⅰ－2	3	1	1	1		
	社会思想史	3	1	1	1		
	社会科学概論	3	1	1	1		
	社会工学計画	3	1	1	1		
	統計学概論	3	1	1	1		
選択Ⅱ	史学Ⅱ	3	1	1	1		
	史学Ⅲ	3	1	1	1		
	国文学	3	1	1	1		
	言語学	3	1	1	1		
	心理学	3	1	1	1		
	アメリカ史Ⅰ	3	1	1	1		
	アメリカ史Ⅱ	3	1	1	1		
	東洋思想史	3	1	1	1		
	人文地理	3				3	
	日本語学	3	1	1	1		
	西洋の思想と文化	3	1	1	1		
	法学	3	1	1	1		
	ミクロ経済学	2	1	1			
	マクロ経済学	2	1	1			
	経営学概論	2	集 中 講 義				
	地域経済分析	2	1	1			
	現代産業論	1				1	
	社会と環境	2	1	1			
	社会調査論	2	1	1			
	開発計画論	1	集 中 講 義				
	保健体育実技Ⅲ	1	3				卒業要件単位数 に算入しない。
選択Ⅲ	日本語B	3	2	2	2		特例科目として 外国人留学生に 開講する。
	日本語C	1.5	1	1	1	3	
	日本語D	1.5	1	1	1	3	

② 一般基礎Ⅲ

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			3年次			4 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
選 択	英語Ⅲ	3	2	2	2		
	英語Ⅳ	2				4	
	ドイツ語Ⅲ	3	2	2	2		
	ドイツ語Ⅳ	2				4	
	フランス語Ⅲ	3	2	2	2		
	フランス語Ⅳ	1				2	
	中国語	3	2	2	2		

③ 一般基礎Ⅳ

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			3年次			4 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
選択Ⅱ	日本語法	1	1	1	1		総合科目は、修得 2単位までと 各科目とも1 単位まで修得 できる。
	英語基礎Ⅱ	1	2				
	総合科目Ⅳ	1	1				
	総合科目Ⅴ	1	1	1	1		
	総合科目Ⅵ	1	1	1	1		
	総合科目Ⅶ	1	1	1	1		

(2) 専門科目

① エネルギー工学課程

区 分	必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
				3 年 次			4 年 次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期		
専 門 								

② 生産システム工学課程

区分	必・選の別	授業科目	単位数	講 時 数				備 考	
				3 年次			4 年次		
				1 学期	2 学期	3 学期			
専門Ⅱ	必修	生産システム工学実験Ⅰ	2	6					
		生産システム工学実験Ⅱ	1			3			
		生産システム工学演習	1. 5		3				
		数学Ⅴ	1. 5	2					
		数学Ⅵ	1. 5		2				
		特別研究	4				12		
		実務訓練	6						
	選択Ⅱ	材料力学Ⅰ	3	4					
	選択Ⅲ	電算機プログラミング	2	3					
		電子機械制御	2			2			
		電子・情報工学概論	2			2			
		数理統計学	1		1				
	選択Ⅳ	熱力学Ⅱ	1	1					
		製錬工学	1				1		
		金属化学	1			1			
		機械材料基礎論Ⅰ	1	1					
		機械材料基礎論Ⅱ	1		1				
		金属材料Ⅰ	1			1			
		金属材料Ⅱ	1				1		
		材料保証学	1			1			
		熱物質移動Ⅰ	2		2				
		プロセス解析Ⅰ	1			1			
		プロセス解析Ⅱ	1				1		
		塑性加工学	2	2					
		接合加工学	2	2					
		精密加工学	2		2				
		機械設計Ⅰ	1	1					
		機械設計Ⅱ	1			1			
		機械設計演習	1. 5				3		
		振動工学Ⅰ	2			2			
		振動工学Ⅱ	1				1		
		計測システム	2	2					
		システム解析基礎論Ⅰ	1	1					
		システム解析基礎論Ⅱ	1				1		
		制御工学ⅡⅠ	1			1			
		制御工学ⅡⅡ	1				1		
		制御機器概論	1				1		
		計画数学	1		1				
		生産工学	1				1		
		物理数学基礎	2		2				
		選択Ⅴ	流体力学Ⅰ	2	2				
			流体機械	2				2	
			熱機関	1				1	
			表面工学	2				2	
	材料強度学		2				2		
	化学工学		2				2		
	原子力工学概論		2				2		
	自動車工学		1				1		

③ 電気・電子工学課程

区 分	必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
				3 年 次			4 年 次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期		
専 門 II	必 修	数学Ⅳ	1 . 5	2				
		数学Ⅴ	1 . 5			2		
		電気数学Ⅰ	2	2				
		電気数学Ⅱ	2		2			
		電磁気学Ⅳ	2	2				
		電磁気学Ⅴ	2		2			
		電気回路論Ⅳ	2	2				
		電子回路Ⅲ	2		2			
		電子回路Ⅳ	2			2		
		電気物性基礎論Ⅰ	2		2			
		固体電子工学Ⅰ	2			2		
		電気・電子工学実験Ⅰ	4	12				
		電気・電子工学実験Ⅱ	2				6	
		特別実験	4				12	
		実務訓練	6					
	選 択	電磁気学Ⅵ	2			2		
		情報理論	2			2		
		電気物性基礎論Ⅱ	2			2		
		数値解析	2		2			
		計算機構成論Ⅰ	2		2			
		プログラム構成法	2	2				
		信号解析論	2			2		
		データ構造論	2		2			
		言語処理系論	2			2		
		通信システム	2				2	
		システム・プログラム論	2				2	
		ディジタル信号処理論	2				2	
		電力工学Ⅱ	2				2	
		高電圧工学	2				2	
		固体電子工学Ⅱ	2				2	
		電気材料論	2				2	
		電磁波工学	2				2	
		レーザー工学	2				2	
		電気機器設計法及び製図	2				2	
		電離気体論	2				2	
		エネルギー変換工学	2				2	
		信頼性工学	2				2	
		制御工学	2				2	
		原子力工学	2				2	
		計算理論	2				2	
		論理回路設計	2				2	
		半導体工学Ⅰ	2				2	
		半導体工学Ⅱ	2				2	
情報交換工学	2				2			
電気・電子工学特別講義Ⅰ	1				1			
電気・電子工学特別講義Ⅱ	1				1			
工場管理	1				1			
電気法規	1				1			
電波法規	1				1			

④ 情報工学課程

区 分	必 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
				3 年 次			4 年 次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期		
専 門 Ⅱ	必 修	数学Ⅳ	1.5	2				
		数学Ⅴ	1.5			2		
		情報数学Ⅰ	2	2				
		論理回路Ⅱ	2	2				
		データ構造論	2		2			
		情報工学実験Ⅰ	4	12				
		情報工学実験Ⅱ	2				6	
		特別実験	4				12	
		実務訓練	6					
	選 択	情報数学Ⅱ	2		2			
		電磁気学Ⅳ	2	2				
		電磁気学Ⅴ	2		2			
		線形システム論	2		2			
		電磁気学Ⅵ	2			2		
		電子回路Ⅲ	2			2		
		情報理論	2			2		
		電気物性基礎論Ⅰ	2		2			
		電気物性基礎論Ⅱ	2			2		
		数値解析	2		2			
		プログラム構成法	2	2				
		固体電子工学Ⅰ	2			2		
		言語処理系論	2			2		
		形式言語論	2		2			
		論理数学	2			2		
		信号解析論	2			2		
		計算機構成論Ⅰ	2	2				
		計算機構成論Ⅱ	2				2	
		通信システム	2				2	
		システム・プログラム論	2				2	
		ディジタル信号処理論	2				2	
		電力工学Ⅱ	2				2	
		電磁波工学	2				2	
		エネルギー変換工学	2				2	
		信頼性工学	2				2	
		制御工学	2				2	
		計算理論	2				2	
		論理回路設計	2				2	
		半導体工学Ⅰ	2				2	
		半導体工学Ⅱ	2				2	
		情報交換工学	2				2	
		記号処理言語	2				2	
		情報工学特別講義Ⅰ	1				1	
		情報工学特別講義Ⅱ	1				1	
		情報工学特別講義Ⅲ	1				1	
		工場管理	1				1	
		電気法規	1				1	
電波法規	1				1			
パソコン認識・学習理論	2				2			
神経生理工学	2				2			
神経数理工学	2				2			
知識工学	2				2			

⑤ 物質工学課程

区 分	必・選 の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
				3年次			4 年 次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期		
専 門 II	必 修	化学安全学	1	集 中 講 義				
		物質工学演習Ⅲ	2	4				
		物質工学実験	4	12				
		物理化学Ⅲ	1	1				
		物理化学Ⅳ	1		1			
		有機化学Ⅲ	1	1				
		有機化学Ⅳ	1		1			
		無機化学Ⅲ	1	1				
		無機化学Ⅳ	1		1			
		分析化学Ⅲ	1	1				
		分析化学Ⅳ	1		1			
		生化学Ⅰ	1	1				
		生化学Ⅱ	1		1			
		化学数学	2	2				
		物質工学卒業研究Ⅰ	4			12		
		物質工学卒業研究Ⅱ	8				24	
		物質工学演習Ⅳ	3				6	
		実務訓練	6					
	選 択	物理化学Ⅴ	1			1		
		応用物理化学Ⅰ	1			1		
		応用物理化学Ⅱ	1				1	
		応用物理化学Ⅲ	1				1	
		有機化学Ⅴ	1			1		
		応用有機化学Ⅰ	1		1			
		応用有機化学Ⅱ	1				1	
		応用有機化学Ⅲ	1				1	
		無機化学Ⅴ	1	集 中 講 義				
		応用無機化学Ⅰ	1			1		
		応用無機化学Ⅱ	1				1	
		応用無機化学Ⅲ	1				1	
		分析化学Ⅴ	1			1		
		応用分析化学Ⅰ	1		1			
		応用分析化学Ⅱ	1				1	
		応用分析化学Ⅲ	1				1	
		材料科学Ⅰ	1				1	
		材料科学Ⅱ	1				1	
		材料科学Ⅲ	1				1	
		生化学Ⅲ	1			1		
		物質科学Ⅰ	1				1	
		物質科学Ⅱ	1	1				
		物質科学Ⅲ	1				1	
		物質科学Ⅳ	1				1	
		物質科学Ⅴ	1				1	
		物質工学特別講義Ⅰ	1	集 中 講 義				
		物質工学特別講義Ⅱ	1	集 中 講 義				
		物質工学特別講義Ⅲ	1	集 中 講 義				
		物質工学特別講義Ⅳ	1	集 中 講 義				

⑥ 建設工学課程

区 分	必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
				3 年 次			4 年 次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期		
専 門 								

⑦ 知識情報工学課程

区 分	必・ 選の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
				3 年 次			4 年 次	
				1 学 期	2 学 期	3 学 期		
専 								

区分	必修 別	授業科目	単位数	講 時 数				備 考
				3年次			4年次	
				1学期	2学期	3学期		
専 門 Ⅱ	必修	エコロジー工学論	2	2				
		エコロジー工学演習Ⅲ	2		4			
		エコロジー工学実験	3	9				
		応用数学Ⅰ	1	1				
		応用数学Ⅱ	1		1			
		エコロジー工学演習Ⅳ	2				4	
		エコロジー工学卒業研究	10				30	
		実務訓練	6					
	選択	物理化学Ⅱ	1	1				
		生物化学Ⅱ	1	1				
		応用数学Ⅲ	1			1		
		情報数理工学	1			1		
		システム制御工学	1	1				
		数理生態学	2		2			
		エコロジー工学特別講義	3	集中講義				
		プログラム構成法	2				2	
		生物反応工学	2	2				
		生理工学	2	開講しない				
		生物機能材料工学	2			2		
		遺伝子工学	2		2			
		生物環境資源工学	2	開講しない				
		分子生物学	2				2	
		たんばく工学	2				2	
		化学生態学	2				2	
		応用微生物学	2				2	
		廃棄物化学	2				2	
		電子物性基礎論	2		2			
		デジタル信号処理論	2				2	
		論理回路設計	2				2	
		バイオ計測工学	2	2				
		生物情報工学	2	2				
		生物物理学	2			2		
		バイオ光応用工学	2				2	
		生体電気力学	2				2	
		半導体工学	2				2	
		マイクロエレクトロニクス	2				2	
		水圏環境工学	2			2		
		気圏環境工学	2	2				
		地圏環境工学	2			2		
		環境・生態リミックス	2			2		
生態エネルギー工学	2	2						
エネルギー・資源・環境論	1		1					
エネルギー・物質再生処理工学	2		2					
環境移動現象学	2	2						
環境計測工学	2				2			
人為創成物質環境・生態影響論	1				1			
地球規模エネルギーシステム工学	1				1			
環境調和エネルギー利用工学	1				1			

工 学 研 究 科 修 士 課 程

I 修了要件等

1 修了要件

修士課程修了に必要な最低修得単位数については、以下のとおり定めている。

なお、社会計画工学を主として履修する学生の輪講Ⅰ・Ⅱ及び特別研究は「社会計画工学輪講Ⅰ」、「社会計画工学輪講Ⅱ」及び「社会計画工学特別研究」とする。

区 分		修了要件 単 位 数	備 考	
共 通 科 目	社会計画工学関係科目	2		
	社会文化学関係科目	4	指導教官が適当と認めた場合は、 2単位までに限り他課程の科目（特 別講義を除く）で代替できる。	
	計	6		
専 攻 科 目	エネルギー工学専攻	24	4単位	指導教官が適当と認 めた場合は、左記の単 位数までに限り、他専 攻の科目（特別講義を 除く）をもって代替で きる。
	生産システム工学専攻	24	6単位	
	電気・電子工学専攻	24	4単位	
	情報工学専攻	24	4単位	
	物質工学専攻	24	6単位	
	建設工学専攻	24	6単位	
	知識情報工学専攻	24	6単位	
計		30		

2 学位の申請

修了要件の単位を修得した者、又は修得見込みの者でなければ学位を申請することができない。なお、学位論文等の提出については、掲示で通知する。

3 最終試験

最終試験は、修了要件の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出した者について行う。

II 履修方法・試験・在学年限等

1 履修方法

授業科目の履修は、教育課程にしたがって履修すること。

(1) 履修計画

履修計画は、本書及び授業時間割をよく読み、指導教官の指導・助言によって授業科目を履修し、必要な研究指導を受けること。

授業時間割表については、各学期の始めに掲示する。
なお、集中講義科目については、開講時期等が決定次第、掲示により通知する。

(2) 履修登録

履修しようとする授業科目は、所定の期日までに「受講科目履修登録表」により、すべて履修登録しなければならない。

履修登録していない授業科目の単位認定は一切できない。

なお、集中講義科目（不定期に、ある期間集中して授業が行われる科目）については、その科目の開講日の3日前（休業日を除く）までに「集中講義科目履修登録票」により履修登録すること。

- 1 他専攻及び他課程の授業科目を履修しようとする場合は、指導教官及び授業担当教官に「他課程（他専攻）受講願」を提出し、許可を受けた上で履修登録すること。
- 2 履修登録したにもかかわらず、授業や試験を受けない場合は、その授業科目は不合格とする。ただし、履修登録の取り消し（下記（3）参照）をした場合はこの限りでない。
- 3 単位を修得した授業科目は、再度、履修登録できない。
- 4 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修できない。ただし、再履修（下記（4）参照）の場合で、試験等により単位認定する科目及び集中講義科目については、この限りでない。

(3) 履修登録の確認及び追加・取消について

履修登録の確認は、「履修登録確認表」（年度初めに各自に一度しか配付しない）により行うこと。

記載された内容に間違いがある場合は、追加・取消の手続きを必ず行うこと。

(4) 再履修

定期試験等で不合格となった授業科目の内、修得を必要とする授業科目については原則として次年度に再履修すること。

なお、再履修しようとする授業科目についても、前記「（2）履修登録」により履修登録すること。

(5) 試験等による再履修

授業科目担当教官が、試験等により単位認定すると認めた場合に限り、「試験等による再履修願」を授業科目担当教官に提出し、許可を受けた上で前頁「（2）履修登録」により履修登録すること。

2 試験

試験には、定期試験及び追試験がある。

(1) 定期試験

定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて実施する。ただし、授業科目担当教官が必要と認めた場合は、随時に試験を行うことができる。

なお、定期試験の実施期間及び試験時間割等は、その都度掲示で通知する。

(2) 追試験

追試験は、学生が次の理由により、当該授業科目の定期試験を受けることができなかった場合に限り、「追試験受験許可願」を学務課教務係で受け取り、授業科目担当教官等の許可を受けた上で、追試験を受験することができる。

- ① 病気（医師の診断書を添付）のとき
- ② 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

(3) 単位の認定及び成績評価

授業科目の単位認定は、試験等により授業科目担当教官が行う。

- ① 成績の評価は、次の基準によって行い、A、B及びCを合格、Dを不合格とし、C以上の評価を得た場合に単位を認定する。
 - A・・・80点以上
 - B・・・65点以上80点未満
 - C・・・55点以上65点未満
 - D・・・55点未満
- ② 単位認定された成績は、各学期終了後、学務課教務係から「単位修得表」により通知する。（配付日は、履修登録関係日程を参照すること。）

3 在学年限

修士課程の学生は、3年を超えて在学することができない。

4 休学

疾病その他特別の理由により、引き続き2か月以上修学することができない場合は、所定の「休学願」を指導教官及び所属系長を経由して学務課教務係に提出し、学長の許可を得て1年以内に限り休学することができる。

なお、休学期間は、前記「3 在学年限」に定める在学期間に算入しない。

III 教育課程

1 授業科目・単位等

(1) 授業科目

授業科目は、大きく共通科目と専攻科目に分かれ、それぞれの授業科目ごとに単位を定めている。

開講授業科目については、次頁以降の共通科目等及び専攻科目を参照すること。
なお、授業科目の内容については、別冊「授業紹介」を参照すること。

(2) 必修科目と選択科目

- ① 必修科目は、必ず履修して単位を修得しなければならない科目である。
- ② 選択科目は、開講されている科目の中から選択して履修し、単位を修得する科目である。

(3) 単位の計算方法

授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれか、又はこれらの併用により行われるが、1単位の履修時間は、次の基準により計算する。

- ① 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

(4) 授業期間

授業期間は、学年暦（本書表紙裏面参照）によって定めており、第1学期、第2学期及び第3学期の3学期から成っている。

2 共通科目等

分野	必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考	
				1 年次			2 年 次		
				1 学 期	2 学 期	3 学 期			
社 会 計 画 工 学	選 択	経済システム分析特論	2	2			2	社会計画工学を主として履修する学生を対象とする。	
		計量経済学特論	2	集 中 講 義			2		
		産業政策特論	2	2			2		
		管理科学特論	2	2			2		
		生産管理特論	2	2			2		
		環境計画特論	2	2			2		
		環境経済分析特論	2	2			2		
		社会計画工学輪講Ⅰ	3						
		社会計画工学輪講Ⅱ	3						
		社会計画工学特別研究	8						
社 会 文 化 学	選 択	社会思想史特論Ⅰ	2	2			2	修了要件単位に算入 しない	
		社会思想史特論Ⅱ	2	2			2		
		文学特論	2	2			2		
		哲学特論	2	2			2		
		言語と思想Ⅰ	2	2			2		
		言語と思想Ⅱ	2	2			2		
		言語と文化Ⅰ	2	2			2		
		言語と文化Ⅱ	2	2			2		
		日本文化論Ⅰ	2	2			2		
		日本文化論Ⅱ	2	2			2		
		米英文化論Ⅰ	2	2			2		
		米英文化論Ⅱ	2	2			2		
		西欧文化論	2	2			2		
		歴史と文化	2	2			2		
		現代スポーツ論	2	2			2		
		運動生理学特論	2	2			2		
		体育科学	2	2			2		
		日本語 E 1	3	2	2	2	6	(漢字圏)	特例科目として外国人留学生に開講する
		日本語 E 2	3	2	2	2	6	(非漢字圏)	
		日本事情	3	1	1	1	3		
日本語 S	1		1	1	2	(初心者)			

3 専攻科目

① エネルギー工学専攻

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			1 年次			2 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
必 修	エネルギー工学輪講Ⅰ	3					
	エネルギー工学輪講Ⅱ（※１）	3					
	エネルギー工学特別研究（※２）	4					
選 択	応用熱工学Ⅰ	1		1			
	応用熱工学Ⅱ	1	1				
	流体工学特論	1		1			
	流体機械特論	1	1				
	混相流の工学	2		2			
	応用燃焼学	2	2				
	高速気体反応流基礎論	1		1			
	電磁流体力学	1			1		
	エネルギー物理工学	2		2			
	固体力学	2	2				
	破壊力学	1	1				
	構造設計論	1		1			
	システム制御論	1			1		
	機械表面物性	1		1			
	エネルギー工学大学院特別講義Ⅰ	1	集 中 講 義				
	エネルギー工学大学院特別講義Ⅱ	1	集 中 講 義				

〔注1〕 ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（4単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注2〕 ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

② 生産システム工学専攻

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			1 年 次			2 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
必 修	生産システム工学輪講Ⅰ	3					
	生産システム工学輪講Ⅱ（※1）	3					
	生産システム工学特別研究（※2）	4					
選 択	金属化学特論	2		2			
	機械材料学特論	2			2		
	材料保証学特論	2	2				
	成形加工学	2	2				
	接合加工学特論	2		2			
	精密加工特論	2			2		
	工程制御特論	2	2				
	計測システム特論	2		2			
	システム解析論	2			2		
	生産システム工学大学院特別講義Ⅰ	1	集 中 講 義				
	生産システム工学大学院特別講義Ⅱ	1	集 中 講 義				
	生産システム工学大学院特別講義Ⅲ	1	集 中 講 義				

〔注1〕 ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（6単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注2〕 ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

③ 電気・電子工学専攻

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			1 年 次			2 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
必 修	電気・電子工学輪講Ⅰ	3					
	電気・電子工学輪講Ⅱ（※１）	3					
	電気・電子工学特別研究（※２）	8					
選 択	超電導工学特論	2	2				
	フォトンテクノロジー特論	2				2	
	磁性体工学特論Ⅰ	2				2	
	磁性体工学特論Ⅱ	2		2			
	固体電子工学特論Ⅱ	2		2			
	ビーム・テクノロジー特論	2			2		
	電気絶縁工学特論	2				2	
	電力工学特論	2			2		
	誘電体工学特論	2	2				
	電気応用工学特論	2				2	
	固体電子工学特論Ⅰ	2				2	
	光物性工学特論	2		2			
	半導体工学特論Ⅰ	2				2	
	半導体工学特論Ⅱ	2				2	
	半導体工学特論Ⅲ	2	2				
	集積回路工学特論	2				2	
	電気・電子工学大学院特別講義Ⅰ	1	集 中 講 義				
	電気・電子工学大学院特別講義Ⅱ	1	集 中 講 義				

〔注１〕 ※１は、２年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（４単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注２〕の条件が満たされていることを要す。

〔注２〕 ※２は、２年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを１年次のみで修得可能とする。

④ 情報工学専攻

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考	
			1 年次			2 年 次		
			1 学 期	2 学 期	3 学 期			
必 修	情報工学輪講Ⅰ	3						
	情報工学輪講Ⅱ（※１）	3						
	情報工学特別研究（※２）	8						
選 択	情報工学基礎特論Ⅰ	2				2		
	情報工学基礎特論Ⅱ	2				2		
	電子計算機工学特論Ⅰ	2	2					
	電子計算機工学特論Ⅱ	2				2		
	電子計算機工学特論Ⅲ	2				2		
	電子計算機応用特論Ⅰ	2				2		
	電子計算機応用特論Ⅱ	2		2				
	情報処理特論Ⅰ	2				2		
	情報処理特論Ⅱ	2				2		
	システム工学特論Ⅰ	2				2		
	システム工学特論Ⅱ	2	2					
	生体情報工学特論Ⅰ	2			2			
	生体情報工学特論Ⅱ	2				2		
	情報交換工学特論Ⅰ	2				2		
	情報交換工学特論Ⅱ	2				2		
	情報伝送工学特論Ⅰ	2	2					
	情報伝送工学特論Ⅱ	2				2		
	デジタル信号処理工学特論Ⅰ	2				2		
	デジタル信号処理工学特論Ⅱ	2	2					
	画像工学特論Ⅰ	2		2				
	応用代数学特論	2			2			
	応用解析学特論	2			2			
	組織知能工学	2				2		
	ディジタルシステム理論	2				2		
	並列・分散処理論	2	2					
	応用データベース論	2	2					
	認知心理工学	2	2					
	応用確率統計学特論	2				2		
	神経系構成論	2		2				
	ディジタル画像処理特論	2		2				
	知識処理論	2		2				
	学習・適応理論	2				2		
	情報工学大学院特別講義Ⅰ	1	集 中 講 義					
	情報工学大学院特別講義Ⅱ	1	集 中 講 義					
	情報工学大学院特別講義Ⅲ	1	集 中 講 義					

- 〔注１〕 ※１は、２年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目または他専攻２科目（４単位）を要する。
- 〔注２〕 ※２は、２年間で修得可能な１年次のみで修得可能とする。

⑤ 物質工学専攻

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			1 年 次			2 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
必 修	物質工学輪講Ⅰ	3					
	物質工学輪講Ⅱ（※１）	3					
	物質工学特別研究（※２）	6					
選 択	分離定量分析化学特論	2	2				
	溶液化学特論	1	1				
	化学工学特論	1				1	
	無機物性工学特論	2				2	
	無機材料工学特論	2		2			
	応用物理化学特論	2				2	
	有機材料工学特論	2				2	
	複合材料工学特論	2	2				
	応用有機化学特論	2				2	
	生化学特論	2		2			
	分子生物学特論	1		1			
	物質工学大学院特別講義Ⅰ	0.5	集 中 講 義				
	物質工学大学院特別講義Ⅱ	0.5	集 中 講 義				
	物質工学大学院特別講義Ⅲ	0.5	集 中 講 義				
	物質工学大学院特別講義Ⅳ	0.5				½	
	物質工学大学院特別講義Ⅴ	0.5				½	
	物質工学大学院特別講義Ⅵ	0.5				½	

〔注１〕 ※１は、２年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（６単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注２〕の条件が満たされていることを要す。

〔注２〕 ※２は、２年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを１年次のみで修得可能とする。

⑥ 建設工学専攻

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			1 年 次			2	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期	年 次	
必 修	建設工学輪講Ⅰ	3					
	建設工学輪講Ⅱ（※１）	3					
	建設工学特別研究（※２）	6					
選 択	構造工学特論Ⅰ	2				2	
	構造工学特論Ⅱ	2		2			
	構造力学特論Ⅰ	2				2	
	構造力学特論Ⅱ	2		2			
	地盤工学特論Ⅰ	2	2				
	地盤工学特論Ⅱ	2				2	
	構造学大学院特別講義Ⅰ	1	集 中 講 義				
	構造学大学院特別講義Ⅱ	1				1	
	建築環境工学特論Ⅰ	2				2	
	建築環境工学特論Ⅱ	2	2				
	水工学特論Ⅰ	2		2			
	水工学特論Ⅱ	2				2	
	衛生工学特論Ⅰ	2				2	
	衛生工学特論Ⅱ	2		2			
	環境工学大学院特別講義Ⅰ	1	集 中 講 義				
	環境工学大学院特別講義Ⅱ	1				1	
	都市計画特論	2				2	
	建設史特論	2				2	
	地区計画特論	2				2	
	建築計画特論	2	2				
	住宅計画特論	2		2			
	交通計画特論	2		2			
	計画大学院特別講義Ⅰ	1	集 中 講 義				
	計画大学院特別講義Ⅱ	1				1	

〔注１〕 ※１は、２年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（６単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注２〕の条件が満たされていることを要す。

〔注２〕 ※２は、２年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを１年次のみで修得可能とする。

⑦ 知識情報工学専攻

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考	
			1 年 次			2 年 次		
			1 学 期	2 学 期	3 学 期			
必 修	知識情報工学輪講Ⅰ	3						
	知識情報工学輪講Ⅱ（※1）	3						
	知識情報工学特別研究（※2）	8						
選 択	応用代数学特論	2			2			
	応用解析学特論	2			2			
	学習・適応理論	2				2		
	組織知能工学	2				2		
	ディジタルシステム理論	2				2		
	並列・分散処理論	2	2					
	自然言語処理論	2		2				
	知識表現論	2				2		
	知識処理論	2		2				
	応用データベース論	2	2					
	化学グラフ論	2				2		
	分子グラフィックス特論	2		2				
	計量化学特論	2	2					
	分子設計工学	2			2			
	分子解析工学	2			2			
	認知心理工学	2	2					
	応用確率統計学特論	2				2		
	神経システム工学	2			2			
	神経系構成論	2		2				
	計算機統合生産システム論	2				2		
	知能機械制御理論	2	2					
	ディジタル画像処理特論	2		2				
	ソフトウェア工学特論	2			2			
	社会システム解析特論	2		2				
		知識情報工学大学院特別講義Ⅰ	1	集 中 講 義				
		知識情報工学大学院特別講義Ⅱ	1	集 中 講 義				

〔注1〕 ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（6単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注2〕 ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

工 学 研 究 科 博 士 後 期 課 程

I 修了要件等

1 修了要件

博士後期課程修了に必要な最低修得単位数については、以下のとおり定めている。

なお、修士課程（共通科目及び専攻科目のうち特別講義は除く。）及び他専攻の博士後期課程の授業科目を履修することができ、大学が適当と認めた場合は、その単位の内4単位までに限り修了に必要な単位数に算入することができる。

区 分	修了要件単位数	備 考
機械・構造システム工学専攻	9	
機 能 材 料 工 学 専 攻	9	
電 子 ・ 情 報 工 学 専 攻	9	
環 境 ・ 生 命 工 学 専 攻	9	

2 学位の申請

修了要件の単位を修得した者、又は修得見込みの者でなければ学位を申請することができない。なお、学位論文等の提出については、掲示で通知する。

3 最終試験

最終試験は、修了要件の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出した者について行う。

II 履修方法・試験・在学年限等

1 履修方法

- (1) 授業科目の履修にあたっては、指導教官の指導・助言によって授業科目を履修し、必要な研究指導を受けること。
- (2) 「受講申請票」は、履修科目が決定次第、教官提出用を授業科目担当教官に、学務課提出用を教務係に、それぞれ提出すること。
- (3) 単位を修得した授業科目については、再度履修登録することができない。
- (4) 再履修
定期試験、随時試験及び追試験で不合格となった授業科目のうち修得する必要のある授業科目は、原則として次年度に再履修すること。
なお、再履修しようとする授業科目についても、前記により履修登録すること。

2 試験

試験には、定期試験及び追試験がある。

(1) 定期試験

定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて実施する。ただし、授業科目担当教官が必要と認めた場合は、随時に試験を行うことができる。

(2) 追試験

追試験は、学生が次の理由により、当該授業科目の定期試験を受けることができなかった場合に限り、「追試験受験許可願」を学務課教務係で受け取り、授業科目担当教官等の許可を受けた上で、追試験を受験することができる。

- ① 病気（医師の診断書を添付）のとき
- ② 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

(3) 単位の認定及び成績評価

- ① 授業科目の履修認定及び単位認定は、試験等により授業科目担当教官が行う。
- ② 成績の評価は、次の基準によって行い、A、B及びCを合格、Dを不合格とし、C以上の評価を得た場合に単位を認定する。
 - A・・・80点以上
 - B・・・65点以上80点未満
 - C・・・55点以上65点未満
 - D・・・55点未満

3 在学年限

博士後期課程の学生は、5年を超えて在学することができない。

4 休学

疾病その他特別の理由により、引き続き2か月以上修学することができない場合は、学長の許可を得て休学することができる。

なお、休学期間は、前記「3 在学年限」に定める在学期間に算入しない。

Ⅲ 教育課程

1 授業科目・単位等

(1) 授業科目

授業科目は、専攻科目だけであり、それぞれの授業科目ごとに単位を定めている。

開講授業科目については、次頁以降の「2 専攻科目」に掲載してある。

(2) 単位の計算方法

授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれか、又はこれらの併用により行われるが、1単位の履修時間は、次の基準により計算する。

- ① 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

(3) 授業期間

授業期間は、学年暦（本書表紙裏面）によって定めており、第1学期、第2学期及び第3学期の3学期から成っている。

2 専攻科目

① 機械・構造システム工学専攻

必・選の別	授業科目	単位数	開講年次	担当教官名	教育研究分野
必修	機械・構造システム工学 輪講	3	1	各教官	
選択	固体力学特論	2	1	竹園茂男 埤克己	機械システム工学
選択	構造信頼性工学特論	2	2	本間寛臣 関東康祐	
選択	要素設計学特論	2	1	上村正雄 畔上秀幸	
選択	移動現象学特論	2	1	後藤圭司 北村健三	
選択	燃焼工学特論	2	1	小沼義昭 野田進	
選択	熱工学特論	2	2	三田地紘史 中川勝文	
選択	流体力学特論	2	1	蒔田秀治	
選択	油空圧工学特論	2	1	日比昭 柳田秀記	
選択	計測・制御工学特論	2	2	高木章二 鈴木新一	
選択	変形加工学特論	2	1	中村雅勇 牧清二郎	加工学
選択	除去加工学特論	2	2	星堀内鉄太郎 池野順宰一	
選択	付加加工学特論	2	1	梅本実 福本昌宏	
選択	空間構造システム特論	2	1	加藤史郎 山田聖志	構造システム工学
選択	複合システム構成特論	2	1	栗林栄一 河邑真	
選択	構法・材料設計学特論	2	2	角徹三	

② 機能材料工学専攻

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	開講年次	担 当 教 官 名	教 育 研 究 分 野
必修	機能材料工学輪講	3	1	各 教 官	
選択	材料設計工学特論	2	1	村 田 純 教	材料設計工学
選択	金属材料生産工学特論	2	1	川 上 正 博 竹 中 俊 英	
選択	分子材料合成工学特論	2	1	西 山 久 雄 永 島 英 夫	
選択	分子設計情報工学特論	2	2	大 澤 映 二 宮 下 芳 勝 Del Carpio Carlos Adriel	
選択	金属材料解析工学特論	2	1	小 林 俊 郎 新 家 光 雄	材料解析工学
選択	材料評価解析工学特論	2	1	神 野 清 勝 平 田 幸 夫	
選択	無機材料解析工学特論	2	2	逆 井 基 次 前 田 康 久	
選択	材料表面解析工学特論	2	1	堤 大 和 男 加 串 達 夫 藤 正 直	
選択	有機材料応用工学特論	2	2	伊 藤 浩 一 竹 市 力 伊 津 野 真 一	材料応用工学
選択	生体分子特性工学特論	2	1	青 木 克 之	
選択	無機材料応用工学特論	2	2	亀 頭 直 樹 角 田 範 義	
選択	分子情報工学特論	2	2	阿 部 英 次 高 橋 由 雅 船 津 公 人	

③ 電子・情報工学専攻

必・選の別	授 業 科 目	単 位 数	開講年次	担 当 教 官 名	教 育 研 究 分 野
必 修	電子・情報工学輪講	3	1	各 教 官	
選 択	電気エネルギー工学特論	2	2	小 崎 正 光 長 尾 雅 行	電気・電子工学
選 択	新エネルギー応用工学特論	2	1	榑 原 建 樹	
選 択	電子物性工学特論	2	2	藤 井 井 部 上 壽 和 光 崇 雄 輝	
選 択	電子材料工学特論	2	1	英 太 内 田 田 昭 裕 貢 勇 久	
選 択	デバイス工学特論	2	1	吉 並 石 田 木 田 明 章 誠	
選 択	集積回路工学特論	2	1	米 津 宏 雄 朴 康 司	
選 択	計算機システム工学特論	2	1	今 井 正 治 湯 浅 太 一	システム情報工学
選 択	ソフトウェア工学特論	2	1	磯 田 定 宏 河 合 和 久	
選 択	データベースシステム特論	2	1	奥 山 徹	
選 択	情報数理工学特論	2	2	増 山 繁	
選 択	神経数理工学特論	2	2	伊 藤 嘉 房	
選 択	人工知能工学特論	2	1	中 井 川 上 聖 兎 一 巳	
選 択	パターン情報処理工学特論	2	1	金 山 三 子 本 宅 豊 眞 哲 久 司 夫	
選 択	脳・神経システム工学特論	2	2	臼 吉 戸 杉 井 田 田 支 辰 尚 陽 朗 夫 宏 一	
選 択	制御システム工学特論	2	1	寺 伊 齊 山 嶋 藤 藤 北 一 宏 制 昌 彦 司 海 毅	
選 択	システム解析学特論	2	1	小 野 木 克 明 赤 松 隆	
選 択	情報通信工学特論	2	2	宮 崎 保 光 後 藤 信 夫	
選 択	信号処理工学特論	2	1	北 田 川 所 人 嘉 祥 孟 昭 一	
選 択	応用言語学特論	2	1	山 加 野 内 藤 澤 啓 三 保 介 子 典	文化システム
選 択	西洋自然思想特論	2	2	山 小 浜 本 杉 島 隆 昭 淳 方 一	
選 択	西洋文化・文明特論	2	2	大 野 呂 村 義 雄 武	
選 択	言語学特論	2	2	伊 尾 河 藤 崎 合 光 一 弓 彦 志 子	

④ 環境・生命工学専攻

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	開講年次	担 当 教 官 名	教 育 研 究 分 野
必 修	環境・生命工学輪講	3	1	各 教 官	
選 択	空気・温熱環境工学特論	2	1	本 間 宏 松 本 博	環境計画学
選 択	都市環境計画特論	2	2	三 宅 醇 大 貝 彰	
選 択	建築・地区環境計画特論	2	1	瀬 口 哲 夫	
選 択	地域環境計画特論	2	2	渡 邊 昭 彦 廣 畠 康 裕	
選 択	環境経済学特論	2	1	大 貝 彰	
選 択	水環境工学特論	2	2	北 尾 高 嶺 中 村 木 俊 六	環境保全学
選 択	生態保全工学特論	2	2	北 田 敏 廣 木 曾 祥 秋	
選 択	エネルギー環境工学特論	2	1	大 竹 一 友	
選 択	燃焼環境工学特論	2	2	吉 川 典 彦 金 熙 濬	
選 択	環境生物機能制御特論	2	1	鈴 木 慈 郎 Siddiqui Shahid S a e e d	生命工学
選 択	細胞応用工学特論	2	1	水 野 彰 藤 江 幸 一	
選 択	健康科学特論	2	1	寺 澤 猛 安 田 好 文 大 貝 彰	

添 付 資 料

豊橋技術科学大学工学部教育課程及び履修方法等に関する規則

(平成4年2月26日制定)

(趣旨)

第1条 豊橋技術科学大学工学部の教育課程及び履修方法等は、豊橋技術科学大学学則(昭和53年4月1日制定。以下「学則」という。)に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(授業科目及び単位数等)

第2条 学則第24条第2項に規定する工学部の授業科目及び単位数等は、別表1のとおりとする。

2 前項の授業科目は、一般基礎Ⅰ、一般基礎Ⅱ、一般基礎Ⅲ、一般基礎Ⅳ、専門Ⅰ及び専門Ⅱの区分を設けるものとする。

(単位の計算方法)

第3条 学則第25条に規定する授業科目の単位の計算方法は、次の基準によるものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

2 特別研究及び卒業研究等の授業科目の単位計算方法は、前項第3号に準ずるものとする。

(授業時間等)

第4条 単位計算における授業時間は、50分をもって1時間の授業とする。

2 1講義時間は、75分とし、1講義時間を最小単位として授業を行うものとする。

(授業期間)

第5条 学則第26条に規定する授業科目の授業は、10週にわたる期間を単位として行うものとする。

(履修方法)

第6条 学生は、在学年次及び在学課程の教育課程にしたがって履修するものとする。

ただし、教育上有益と認められる場合は、所属課程の上級年次の科目及び他課程の科目(実験、実習科目を除く。)を履修することができるものとする。

(履修登録)

第7条 履修しようとする授業科目は、所定の期日までに履修登録しなければならない。履修登録をしていない授業科目については、単位が与えられない。

2 履修登録をした授業科目の変更又は取消しをする場合は、履修科目変更(取消)届を所定の期日までに提出しなければならない。

3 単位を修得した授業科目については、再度履修登録することができない。

4 授業時間割上、同一時間に開設される授業科目については、原則として重複して履修登録することができない。

(定期試験)

第8条 定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて行う。ただし、授業科

目担当教官が必要と認めた場合は、随時に試験を行うことができる。

(追試験)

第9条 追試験は、学生が次の理由により当該授業科目の定期試験を受けることができなかった場合に限り、願い出により受験することができる。

(1) 病気（医師の診断書を添付）のとき

(2) 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

(再試験)

第10条 再試験は、第4年次末定期試験等の結果、不合格科目が2科目5単位以内の者で、その科目が合格することにより卒業資格を得ることができる場合に限り、次の科目について再試験を受験することができる。

(1) 第3年次通年開講の専門Ⅱの科目（実験、実習科目を除く。）

(2) 第3年次第3学期開講の専門Ⅱの科目（実験、実習科目を除く。）

(3) 第4年次開講の専門Ⅱの科目（実験、実習科目を除く。）

(成績の評価)

第11条 学則第29条に規定する成績の評価は、次の基準により行うものとする。

(1) A・・・80点以上

(2) B・・・65点以上から80点未満

(3) C・・・55点以上から65点未満

(4) D・・・55点未満

(再履修)

第12条 不合格科目のうち、修得を必要とする科目については、原則として次年度再履修するものとする。なお、授業担当教官が試験等により単位認定できると認めた場合は、履修を要しないものとする。

2 再履修しようとする科目は、第7条に規定する履修登録をしなければならない。

(入学前の既修得単位の取扱い)

第13条 学則第28条の3に規定する第1年次入学者の既修得単位については、当該入学年次に係る教育課程の科目の内、一般基礎Ⅰ、一般基礎Ⅱ又は一般基礎Ⅲの単位として認定するものとする。

(卒業の要件)

第14条 学則第30条第1項に規定する卒業に要する授業科目及び単位数は、次のとおりとする。

(1) 一般基礎Ⅰについては、16単位

(2) 一般基礎Ⅱについては、18単位

(3) 一般基礎Ⅲについては、10単位

(4) 一般基礎Ⅳについては、6単位

(5) 専門Ⅰについては、30単位

(6) 専門Ⅱについては、50単位

2 学則第30条第2項に規定する第1年次及び第2年次において修得したものとみなすことができる授業科目及び単位数は、次のとおりとする。

(1) 一般基礎Ⅰについては、16単位

- (2) 一般基礎Ⅱについては、10単位
- (3) 一般基礎Ⅲについては、6単位
- (4) 一般基礎Ⅳについては、3単位
- (5) 専門Ⅰについては、30単位

(希望留年)

第15条 学修上の必要から同一年次で再度履修することを希望し、その期間中の勉学計画が妥当と認められる者は、留年することができるものとする。

(指導留年)

第16条 第2年次末において、既に修得した科目及び単位数が別表2に掲げる各課程で定めた科目修得基準に達しない者は、留年させるものとする。

(休学留年)

第17条 現年度中に休学期間があり、その年次中の修得単位数が通算して15単位未満である者は、留年させるものとする。

(留年に係る在学年限)

第18条 第15条、第16条及び第17条の規定による留年の期間は、学則附則（昭和53年4月1日制定）第2項に該当するものとする。

(除籍免除)

第19条 学則第38条第2号括弧書きの特別の理由によりあらかじめ学長の許可を受けた者とは、次の各号の一に該当する場合とし、除籍を免除するものとする。ただし、学則附則（昭和53年4月1日制定）第2項に規定する在学年限の1年を超えることはできない。

- (1) 第4年次に在学する者
- (2) 第15条、第16条及び第17条により留年することとなった者
- (3) 留年している者で、同一年次において通算して15単位以上修得した者

(課程間の移籍)

第20条 学則第23条に規定する課程間の移籍については、次により取扱うものとする。

- (1) 出願時期は、第1年次、第2年次及び第3年次の年度末とする。
- (2) 出願資格を有する者は、出願年次までの各学期の授業科目を履修し、所定の単位を修得しているものとする。
- (3) 選考時期は、出願の年度末とする。
- (4) 移籍は、次の場合に限り、受入れ課程において選考するものとする。

① エネルギー工学課程及び生産システム工学課程、電気・電子工学課程及び情報工学課程それぞれの課程間の移籍については、次の条件を満たす場合とする。

ア 受入れ課程の学生定員に欠員がある場合及び設備に余裕のあるとき

イ その他受入れ課程の指定する条件を満たす者

② ①以外の課程間の移籍については、次の条件を満たす場合とする。

ア 受入れ課程の学生定員に欠員がある場合及び設備に余裕のあるとき

イ 出願年次末までの学業成績及び入学試験成績が受入れ課程の2分の1以上の席次にあると認められる者

ウ その他受入れ課程の指定する条件を満たす者

- (5) 移籍は、学部在学中、1回限りとする。
- (6) 受入れ課程は、移籍後の履修に関し、条件を付することができる。
- (7) 移籍前の修得単位は、移籍後の卒業要件単位として認定することができる。
- (その他)

第21条 この規則に定めるもののほか、履修に関する必要な事項は、教授会の議を経て学長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 平成3年度以前の入学者に係る教育課程及び履修方法等については、なお従前の例による。

附 則（平成5年2月24日）

- 1 この規則は、平成5年4月1日から施行する。
- 2 平成4年度以前の学部入学者並びに平成5年度及び平成6年度の学部第3年次入学者に係る教育課程及び履修方法等については、改正後の第2条、第10条、第13条及び第14条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成5年3月24日）

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成6年3月23日）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成7年3月22日）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

(別表1・・・省略)
(別表2・・・省略)

豊橋技術科学大学実務訓練の履修に関する規則

(昭和55年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、豊橋技術科学大学学則（昭和53年4月1日制定）第24条の2第2項の規定に基づき、実務訓練の履修に関し必要な事項を定める。

(実務訓練の授業)

第2条 実務訓練の授業は、実習により行うものとする。

(実務訓練機関)

第3条 学生が実務訓練を履修する国若しくは地方公共団体の機関又は企業等の法人（以下「実務訓練機関」という。）は、実務訓練実施委員会の議を経て、学長が選定する。

(実務訓練の履修)

第4条 実務訓練を履修する学生（以下「実務訓練学生」という。）は、実務訓練機関の定める諸規則及び実務訓練指導責任者（実務訓練機関における実務訓練の指導責任者であつて、学長が委嘱する者をいう。以下同じ。）の指示に従つて実務訓練を履修しなければならない。

(実務訓練時間)

第5条 実務訓練の時間は、実務訓練機関において定める時間又は実務訓練指導責任者の指定する時間とする。

(休日)

第6条 実務訓練学生の休日は、実務訓練機関において定める休日とする。

(提出書類)

第7条 実務訓練学生は、次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。

- (1) 実務訓練履修票
- (2) 実務訓練学生調書
- (3) 誓約書
- (4) 異動報告書（実務訓練期間中に配属先等を異動した場合に限る。）
- (5) 実務訓練報告書
- (6) その他実務訓練実施委員会が必要と認めるもの

2 前項第2号及び第3号に掲げる書類は、実務訓練機関所定の実務訓練申込書又は誓約書をもつて替えることができる。

3 第1項各号に掲げる書類の様式、提出手続等は、実務訓練実施委員会が定める。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、実務訓練に関し必要な事項は、学長が定める。

附 則

この規則は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則（昭和60年3月27日）

この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則（平成6年4月27日）

この規則は、平成6年4月27日から施行し、改正後の豊橋技術科学大学実務訓練の履修に関する規則の規定は、平成6年4月1日から適用する。

豊橋技術科学大学大学院教育課程及び履修方法等に関する規則

(平成4年2月26日制定)

豊橋技術科学大学大学院教育課程及び履修方法等に関する規則（昭和61年4月1日制定）の全部を改正する。

（趣旨）

第1条 豊橋技術科学大学大学院の教育課程及び履修方法等は、豊橋技術科学大学学則（昭和53年4月1日制定。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（授業科目及び単位数）

第2条 学則第47条に規定する修士課程の授業科目及び単位数は、別表1のとおりとする。

2 学則第47条に規定する博士後期課程の教育研究分野並びに授業科目及び単位数は、別表2のとおりとする。

（単位の計算方法）

第3条 学則第48条に規定する授業科目の単位の計算方法は、次の基準によるものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

2 特別研究等の授業科目の単位計算方法は、前項第3号に準じるものとする。

（授業時間等）

第4条 単位計算における授業時間は、50分をもって1時間の授業とする。

2 1講義時間は、75分とし、1講義時間を最小単位として授業を行うものとする。

（授業期間）

第5条 学則第48条に規定する授業科目の授業は、10週にわたる期間を単位として行うものとする。

（指導教官）

第6条 入学を許可された学生には、入学時に専攻に従って、それぞれ指導教官を定めるものとする。

（履修計画）

第7条 学生は、指導教官の指導助言によって授業科目を履修し、必要な研究指導を受けるものとする。

（修士課程の履修方法）

第8条 学生は、在学年次及び在学専攻の教育課程にしたがって履修するものとする。ただし、教育上有益と認められる場合は、他専攻及び他課程の科目を履修することができるものとする。

（博士後期課程の履修方法）

第9条 学生は、在学年次及び在学専攻の教育課程にしたがって履修するものとする。

る。ただし、教育上有益と認められる場合は、修士課程及び他専攻の科目を履修することができるものとする。

(履修登録)

第10条 履修しようとする授業科目は、所定の期日までに履修登録しなければならない。履修登録をしていない授業科目については、単位が与えられない。

2 履修登録をした授業科目の変更又は取消しをする場合は、履修科目変更（取消）届を所定の期日までに提出しなければならない。

3 単位を修得した授業科目については、再度履修登録することができない。

4 授業時間割上、同一時間に開設される授業科目については、原則として重複して履修登録することができない。

(定期試験)

第11条 定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて行う。ただし、授業科目担当教官が必要と認めた場合は、随時に試験を行うことができる。

(追試験)

第12条 追試験は、学生が次の理由により当該授業科目の定期試験を受けることができなかった場合に限り、願い出により受験することができる。

(1) 病気（医師の診断書を添付）のとき

(2) 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

(成績の評価)

第13条 学則第48条に規定する成績の評価は、次の基準により行うものとする。

(1) A・・・80点以上

(2) B・・・65点以上から80点未満

(3) C・・・55点以上から65点未満

(4) D・・・55点未満

(再履修)

第14条 不合格科目のうち、修得を必要とする科目については、原則として次年度再履修するものとする。なお、授業担当教官が試験等により単位認定できると認めた場合は、履修を要しないものとする。

(修士課程修了に要する授業科目及び単位数)

第15条 学則第50条第1項に規定する修了に要する授業科目及び単位数は、別表1に定める当該専攻科目のうちから24単位以上、共通科目のうち社会計画工学関係科目から2単位以上、社会文化学関係科目から4単位以上をそれぞれ修得するものとする。

(博士後期課程修了に要する授業科目及び単位数)

第16条 学則第50条第3項、第4項及び第5項に規定する修了に要する授業科目及び単位数は、別表2に定める当該専攻科目のうちから9単位以上を修得するものとする。

(学位論文の提出)

第17条 前2条による所定の単位を修得した者又は修得見込みの者でなければ修士

論文又は博士論文を提出することができない。

(最終試験)

第18条 最終試験は、第15条又は第16条に定める所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は博士論文を提出した者について行うものとする。

(留年)

第19条 現年度中に休学期間等があり、現年次に留まる必要を認めた者については、留年させるものとする。

(その他)

第20条 この規則に定めるもののほか、履修に関する必要な事項は、工学研究科委員会の議を経て学長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 平成3年度以前の入学者に係る教育課程及び履修方法等については、なお従前の例による。

附 則 (平成5年2月24日)

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則 (平成5年9月22日)

この規則は、平成5年9月22日から施行する。

附 則 (平成6年3月23日)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則 (平成7年3月22日)

- 1 この規則は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 総合エネルギー工学専攻、材料システム工学専攻及びシステム情報工学専攻に平成7年3月31日に在学する者に係る教育課程及び履修方法等については、なお従前の例による。

〔 別表1・・・省略 〕
〔 別表2・・・省略 〕